



沖縄国際大学校友会 会長
上原 秀雄

〈学長〉 本学も創立40年が過ぎて設立当初から宜野湾区の皆さんには大変お世話になっております。近隣住民の皆様にはご迷惑をおかけすることも多分にあつたかと思いますが、宜野湾区大綱引きなどを構内で開催してもらおう等、地域との連携体制を図り、話し合いながら、より良い関係を築いていきたいと考えております。そして宜野湾市との連携の中で地域コミュニティセンターの設置、大学の位置する本島中部地域、南部・北部地域、離島地域、県との連携をどのように進めていくか検討しています。

そのほかにも、札幌学院大学をはじめとする国内6大学協定校との連携についても更なる連携を進めていきたいと思っております。国外協定校については、一國一協定校、相互互惠といったこれまでの考え方を一歩踏み込んで、大学や地域に貢献できる学生の派遣、あるいは、留学制度の改善に取り組んで行く必要があると思っております。

〈会長〉 この度の校友会創立40周年記念の祝賀会には、多くの宜野湾区民の皆さまが参加して下さい、式典祝賀を盛り上げて頂きました。大変喜ばしい限りであります。地域の皆さまに心から感謝申し上げたいと思っております。

4、大学に対する期待について

〈会長〉 思うに、時代は一段と進化し、国際化への波は多くの人材を強く求めています。一方、「学生のための大学」として人材の輩出と、社会貢献への人材城としての期待は

大きなものがあります。今後、特に期待される項目をあけてみましたので学長のご所見をお聞かせ下さい。

- ① 「就職に強い大学づくり」について
- ② 産学官連携強化（異業種間交流・ビジネス交流充実強化）等について

〈学長〉 就職活動キャリア支援については、特に重点施策と言いますか、力を入れていきたいと考えております。と申しますのは大学を卒業するのは21〜22歳です。人生80年とすれば60年間生活していきます、この60年間を支えるのは、仕事です。そういった仕事に就くのかと言うことは最も大切なことです。就職については入学時から真剣に取り組んで行かなければなりません。特に今年からハローワーク沖縄のジョブサポーターによる大学巡回就職相談も行っているので学生の皆さんには、是非、活用して頂きたいです。

産学連携については、現在、南島文化研究所、沖縄法政研究所、沖縄環境研究所、産業総合研究所の4つの研究所があります。研究が中心になっているところもありますが、今後は、研究所や先生方の業績や頑張りを一般の方々にも評価して頂ける方向にもっていきたくと考えています。また校友会をはじめ後援会、保護者の方々、卒業生など、地域で頑張っている皆さんが一同に集まって、そのエネルギーの息吹を吹き込んで、地域に世界に貢献できる産学連携ができれば良いと思っております。



沖縄国際大学 理事長・学長
大城 保

5、創立50周年に向けて

〈会長〉 本学は8年後、本会はこれから10年後に、それぞれ創立50周年を迎えます。

それはまた半世紀への登坂であり、半世紀から一世紀への折り返し始点でもあります。

従って、50周年は母校にとつて重要な節目であり、社会的にも大学としての真価が問われる重要な時期と言えましょう。

校友一人一人が学舎で育んだ友情、恩師との絆や母校への愛着を大切にしながら、そして人材として地域社会で懸命に根を張り、踏ん張っていけるよう、その支援体制を強化しつつ、「ヒューマンネットワークへの構築」に向けて最大の努力を図って行く必要があります。

また、来年も校友会創立記念日の近い日曜日には、卒業生一同が学舎に集い合うホームカミングデーを開催します。是非、年に一度はホームカミングデーに参加して頂き、相互の親睦を広め、母校の発展に寄与していきたいと思っております。最後に、新たな船出であります創立50周年に向けて、学長の思いなどをお聞かせ頂きたいと思っております。

〈学長〉 今後、45周年事業、50周年事業を推進していかねばならないと思っております。

教育施設については、新3号館の建設でほぼ整うと思っております。完成後は、広場やキャンパス環境の整備を進めていきます。

今後は、学生会館や社会貢献のできる施設、大学会館または交流会館が必要だと思っております。これらを45周年事業として位置づけ、これをステップに50周年には何をするかを準備したいと思っております。何しろ半世紀ですので、これまで大学に関わった皆さん、総ぐるみで進めていけるよう努めていきたいと思っております。その時には校友会、後援会、宜野湾区の協力も必要になってくると思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

〈会長〉 長時間にわたり、ご協力を頂きありがとうございます。これからもご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。